

## パブリックコメント結果公示

案件番号	18001		
結果公示案件名	科学技術情報流通技術基準 SIST02/05/06 の改訂案に関するパブリックコメントの結果について		
定められた規則等の題名 (規則番号を含む)	SIST02-2007: 参照文献の書き方 SIST05-2007: 雑誌名の表記 SIST06-2007: 機関名の表記		
根拠法令条項	—		
行政手続法に基づく 手続であるか否か	任意の意見募集		
規則等の公布日・決定日	2007年3月29日		
結果の公示日	2007年4月2日		
意見公募時の案の公示日	2007年1月10日	意見・情報受付締切日	2007年2月20日
関連ファイル	結果概要、 提出意見、 意見の考慮 結果・理由等	結果概要、提出意見の概要及び意見に対する考え方	
	その他		
意見公募要領	別紙1をご覧ください。		
資料の入手方法	科学技術振興機構研究基盤情報部科学技術普及課にて資料配付 科学技術振興機構のホームページに掲載		
担当部署(問合せ先)	科学技術振興機構研究基盤情報部科学技術普及課 電話: 03-5214-8406		
備考	改訂案(原案)は別紙2をご覧ください。		

## 科学技術情報流通技術基準 (SIST 02/05/06) の改訂案に関する パブリックコメントの結果について

「科学技術情報流通技術基準 (SIST 02/05/06) の改訂案」に関し、平成 19 年 1 月 10 日から 2 月 20 日までパブリックコメントを実施したところ、5 件のご意見をいただきました。ありがとうございました。

全てのご意見の概要及びそれに対応する SIST の考え方は以下のとおりです。  
今回ご意見をお寄せいただきました方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

### 1. 意見募集の概要と提出意見数

#### ○意見募集の概要

- ・意見募集期間：平成 19 年 1 月 10 日（木）～2 月 20 日（火）
- ・告知方法：科学技術振興機構ホームページ
- ・意見受付方法：郵送、電子メール、FAX

○提出意見総数：5 件（5 名）

### 2. 提出意見の概要と SIST の考え方

#### 2. 1 用語について

##### (1) 「用語の意味」について (1)

【該当箇所：SIST 02/05/06 「2. 用語の意味」】

#### 【ご意見の概要】

“科学技術情報流通技術基準”は国家規格ではありませんが、それに準ずるものとして国際規格との整合が求められます。したがって、用語などもできるだけ国際規格に適合したものを使用していただきたい。

##### ① 「用語の意味」

用語に対応する記述は「定義」です。JIS Z 8301 でも「用語及び定義」という表現を使っています。

##### ② 「ローマ字化」と「ローマ字」

「ローマ字化 (romanization)」という表現はありますが、「ローマ字」という表現ありません。国際規格では「Latin character」を使用し、日本語では「ラテン文字」または「ラテンアルファベット」を使用しています (JIS X 0412-1/2)。

## 【SIST の考え方】

① 用語の定義のみに限定されずに、利用者の便宜のために定義以外の情報も記述しておりますので、当初から「用語の意味」としております。例えば、以下の入手日付の説明では、下線部が定義以外の情報です。

### ・入手日付

文献を参照したり入手した年月日をいう。ウェブサイトやウェブページなどネットワーク経由で入手する文献は、削除されたり更新されることがあるので、参照したり入手した年月日を書くことにより、その文献の内容を特定する。

② 文部科学省の小学校学習指導要領でもローマ字と表記し、日本語ではローマ字という表現で定着しております。また、「ローマ字書き」（ローマ字化）という表現も本基準の中で使っておりますので、「ローマ字」で統一しております。「Latin character」を「ローマ字」と表記することが国際規格の用語と適合しないとは考えません。

## (2) 「用語の意味」について (2)

### 【該当箇所：SIST 02/05/06 の「2. 用語の意味」】

#### 【ご意見の概要】

- ① 「用語の意味」にある「翻字」という用語は JIS X 0701 で定義されている。内容も同等なので、そちらを参照すればよいと思う。
- ② 「用語の意味」にある用語で、ローマ字書き、ISBN、ISSN のように ISO 規格及び JIS に規格がある場合は、「用語の意味」の各項目に規格番号も記載したほうがよい。

## 【SIST の考え方】

① 用語については、該当する基準で説明するのが原則と考えます。また、参照で済みますのは、利用者には不便です。以下に JIS と SIST の翻字についての説明を示します。

### ・ JIS

ある記述体系の“文字” (1.1.2.09)を第二の記述体系における対応“文字”で表現すること。

### ・ SIST

ある言語を表記する通常の文字体系を、他の文字体系で表わすこと。ロシア文字(キリル文字)、ギリシャ文字等からローマ字への翻字は ISO 規格及び標準報告書(TR)がある

② ローマ字書き、ISBN、ISSN については SIST の「用語の意味」では以下のように説明しています。用語の意味の説明ですので、規格については言及しませんでした。

### ・ローマ字書き

ローマ字アルファベット以外の文字をローマ字アルファベットで表わすこと。ただし、本基準では日本語の読みをアルファベットで表わすことをいう。なお「翻字」を参照。

### ・ ISBN

国際標準図書番号。International Standard Book Number の略。個々の図書を識別するため

の国際コード。数字 13 桁（2006 年 12 月までは 10 桁）から成るが、便宜的にスペース、ハイフン等でグループ化される。通常、標題紙裏又は裏表紙に記載されている。ロンドンにある International ISBN Agency（国際 ISBN 機関）が管理し、我が国では日本出版インフラセンター内日本図書コード管理センターが国内機関となっている。

#### ・ ISSN

国際標準逐次刊行物番号。International Standard Serial Number の略。個々の逐次刊行物名を識別するための国際コード。数字 8 桁から成り、便宜上、4 字-4 字の形にグループ化される。パリにある ISSN International Centre（ISSN 国際センター）が管理し、我が国では国立国会図書館が ISSN 日本センターとなっている。

## 2. 2 表記法について

### (1) SIST 02 中の著者名等の表記法について

【該当箇所：SIST 02 の「4. 1. 1 個人著者名」、「5. 2. 1 図書 1 冊」、「5. 8 規格文書」】

#### 【ご意見の概要】

##### ① 著者名の表記（「4. 1. 1 個人著者名」の(2)）

姓を優先するのは当然ですが、姓と名との間に「,」を入れることを必須にしてください。「,」を入れないために姓と名とを入れ違えるという間違いが頻発していますので。

##### ② 前置語をもつ姓の表記

「5. 2. 1 図書 1 冊」の例 7 では、著者の姓が van Breemen とあるが、前置語は Van Dyke（「4. 1. 4 編者名、翻訳者名」の(1)）のように大文字で始めるのではないか。

##### ③ 「5. 8 規格文書」の例示

IEC 62278: 2002 Railway application — Specification and . . .  
上記例示中の「—」は短いバー「-」が正しいのではないか。

#### 【SIST の考え方】

- ① 例示では「,」を入れてますが、本文中でも以下のようにアンダーライン部分を追加し、明記しました。  
(2) 欧文著者名は、姓、名の順とする。姓と名はコンマで区切る。名は、原論文での表記に従い、省略することを避ける。
- ② SIST 02 では姓名の大文字使用については規定していません。この場合は当該著書での表記が Nico van Breemen なので、小文字のまま、van Breemen, Nico と表記しました。
- ③ 原資料ではダッシュですので、原資料と同じ「—」のままとしました。

## (2) ローマ字誌名と英文誌名について (SIST02/05)

【該当箇所：SIST 02 の「4.2.2 誌名」、SIST 05 の「3.2 日本語誌名の表記」】

### 【ご意見の概要】

国際標準逐次刊行物番号 (ISSN) の登録の際に同時に登録される雑誌に固有なキータイトルは日本語誌名についてはそのローマ字表記であり、そのローマ字表記にも「〇〇工学会誌」の「工学会誌」部分に Kogakkaishi (o の上にバーを付ける)、Kougakkaishi の二通りがあったり、国際的流通には不適切である。

学会誌を海外向けに電子ジャーナルで発行する際にはこのローマ字誌名ではなく、国際的にも意味が理解される英文誌名を採用する学会がある。日本語誌名と英文誌名が雑誌の表紙に記載されていれば、英文誌名の流通に問題はないと考えるので、SIST でも英文誌名を利用されたい。

### 【SIST の考え方】

ISSN 登録は国内では国会図書館内の ISSN 日本センターが行っていますので、キータイトルについてはそちらにご照会下さい。

SIST 02/05 では「日本語誌名」を欧文文献中で記述する場合は正式誌名のローマ字書きにその欧文誌名を括弧に入れて付記するとしております。つまり、「ローマ字誌名 (英文誌名)」と記述します。

## (3) SIST 02 中のページの表記法について

【該当箇所：SIST 02 の「4.3.12 ページ、記事番号」】

### 【ご意見の概要】

SIST02 改訂案の「4.3.12 ページ、記事番号」で「(1) ページは数字の前に p. を付けて記述する。」とありますが、雑誌の科学論文の参考文献を見ている感覚からすると「p.」は余分に感じました。

### 【SIST の考え方】

出版年、巻、号、ページと数字が並ぶ中では、ページの識別性をよくするために「p.」は必要と考えました。実際には、図書を引用する場合は「p.」をつける記述スタイルが多く、雑誌を引用する場合は、「p.」がない簡易スタイルが多いようです。改訂前の基準 (1997 年版) でも「p.」のない例を並記しておりましたので、雑誌の連続したページについては、「p.」の省略を認める例を追加した以下の記述に修正しました (下線部が改訂案への追加部分)。

#### 4.3.12 ページ、記事番号

(1) ページは、数字の前に p. を付けて記述する。

例 1. p. 1231-1243 (複数ページ。雑誌の場合は、簡略記述では 1231-1243 としてもよい。)

## 2. 3 その他

### (1) SIST 02 でのブログの扱いと LaTeX の利用について

【該当箇所：SIST 02 の「5.10 ウェブサイト、ウェブページ、ブログ」、「2. 用語の意味」、「解説」】

#### 【ご意見の概要】

- ① SIST 02 改訂案の 5.10 でのブログの例示（例 3）では、入手先の URL 記述がサイトトップを指しており、個別記事の入手先の説明として不適切であるように思う。ブログについては、ブログ全体を参照するのではないかぎり、個々の記事の固定リンクを参照先として記述すべきだと思う。
- ② ブログ/ブログ記事の場合、通常のウェブページ/サイトとなんら変わりが無いため、基準中でわざわざ定義を加えて掲載する意義を感じない。（上記のような記述例に入れておくことそのものには賛成）
- ③ 科学技術系論文制作においては LaTeX 文書による組版が指定されることが多く、いくつかの分野では標準的に使用されている。この場合、参照文献作成においては、BibTeX といった参照文献記述の枠組みが存在し、参照文献記述の統一のためにも使用されている。SIST 02 記法の普及を図るためにも、BibTeX の参照記法を参考資料・付録などとして提示していただけると、SIST 02 記法の導入が容易になり、ありがたいと思う。

#### 【SIST の考え方】

- ① ご指摘のとおりですので、URL を修正いたしました。
- ② ブログがウェブでの情報流通に大きな位置を占めてきたので、特別扱いとしましたが、現在ではかなり普及しましたので「用語の意味」の項から削除しました。同様に、電子掲示板、メーリングリストの 2 語も削除しました。
- ③ 本基準は「参照文献の書き方」に関する基準ですので、LaTeX 等のソフトウェアについては対象外です。しかし、ツールとしての BibTeX の参照記法については、資料のご提供があれば、SIST のホームページで公開することで、SIST 02 の普及に役立てたいと考えます。